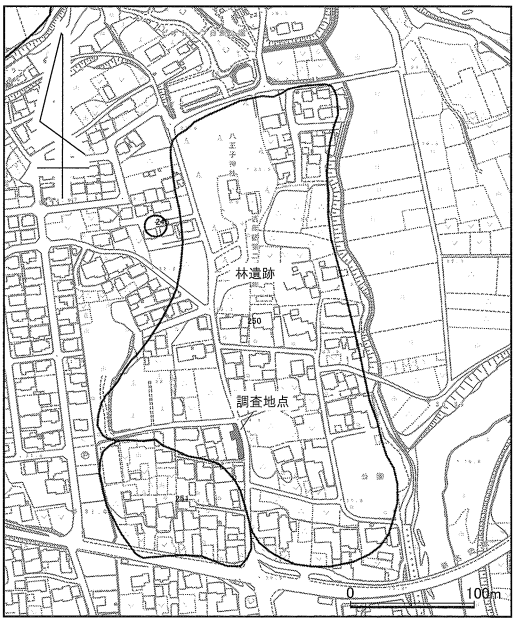
林遺跡第７次発掘調査報告書



番号	遺跡名	番号	遺跡名
109	谷房ヶ谷古墳群	241	東登口古墳群
225	今坂古墳	242	平田ヶ谷遺跡
226	東原遺跡	243	高田遺跡
227	溝ノ口遺跡	244	女高Ⅰ遺跡
228	中原遺跡	245	宮脇行人塚古墳
229	吉岡大塚古墳	246	春林院古墳
230	上ノ段遺跡	249	瓢塚古墳
231	吉岡下ノ段遺跡	**250**	**林遺跡**
232	吉岡下ノ段古墳群	251	西村遺跡
233	大向遺跡	256	行人塚古墳
234	吉岡原遺跡	257	女高Ⅱ遺跡
235	瀬戸山Ⅰ遺跡	258	女高古墳群
236	瀬戸山Ⅱ遺跡	259	高田古墳群
237	瀬戸山Ⅲ遺跡	340	西山城
238	瀬戸山古墳	341	城ノ腰遺跡
239	花ノ腰遺跡	444	今坂遺跡
240	藤六古墳群	467	高田上ノ段古墳

※番号、遺跡名は『掛川市遺跡地名表』による

2020

掛川市教育委員会

例　　言

1　本書は掛川市吉岡に所在する林遺跡の第７次発掘調査報告書である。
2　調査は建売住宅２棟の建築に先立ち、地権者からの委託を受けた掛川市教育委員会が実施した。
3　調査に係わる費用は、全額委託者が負担した。
4　現地調査は平成 31 年４月８日～ 12 日に実施した。
5　発掘調査ならびに整理作業にあたっては、次の方々の参加を得た。（五十音順）
太田敏子、小笠原国重、早乙女のぞみ、鈴木良晴、竹田徳子、寺沢 巧、徳川 浩、藤田 弘、藤田房幸、藤田理恵、松浦良和、村松信夫
6　現地調査は掛川市教育委員会社会教育課の長井郁織が行った。
7　本書の執筆は長井郁織が行った。図版の編集は長井郁織、戸塚和美が行った。
8　本書は Inkscape 及び Adobe 社 InDesign 2020 と Illustrator 2020 によるデジタル編集を行っている。
9　調査に係わる諸記録及び出土遺物は、掛川市教育委員会で保管している。

凡　　例

1　挿図における方位は磁北を表す。
2　本書で使用した遺構表記は、次のとおりである。
SB：竪穴住居跡、SH：掘立柱建物跡、SP：柱穴、小穴
3　本書で使用した柱間寸法は、柱間下端の中心間の数値である。

地理的環境

掛川市は静岡県西部、遠江の東部に位置する。市域の北部は掛川の最高点である八高山（832.1m）を中心とした山地、中央には古大井川の扇状地の隆起により形成された小笠山丘陵があり、南部に遠州灘を臨む。

本調査が実施された林遺跡は、和田岡と呼ばれる地域に位置する。この和田岡地域は、洪積世に原野谷川によって形成された河岸段丘である和田岡原を有しており、標高40～60m程の和田岡原上は、市内でも特に遺跡の多い地域として知られる。林遺跡は和田岡原の東、原野谷川の西に位置する標高30m前後の微高地に占地している。

歴史的環境

ここでは、和田岡地区を中心とした原野谷川中流域の歴史環境を概観していく。

この地区で発見された考古資料のうち最古のものは、瀬戸山Ⅱ遺跡、上ノ段遺跡で出土した旧石器時代のスクレーパーである。縄文時代に入ると、瀬戸山Ⅰ・Ⅱ、向山、高田遺跡で押型文土器片が出土しており、旧石器時代から縄文時代早期にかけて人の活動があったことがうかがえるが、いずれも遺構を伴っていないため不明な点が多い。

縄文時代中期になると前述の遺跡の他、中原、吉岡下ノ段、吉岡原、女高Ⅰ遺跡など、和田岡原の広い地域で土器が出土している。中原、高田、今坂、瀬戸山Ⅰ遺跡では石囲い炉を伴う竪穴住居跡等が発見されるなど、人の活動が活発になった時期であることがうかがえる。

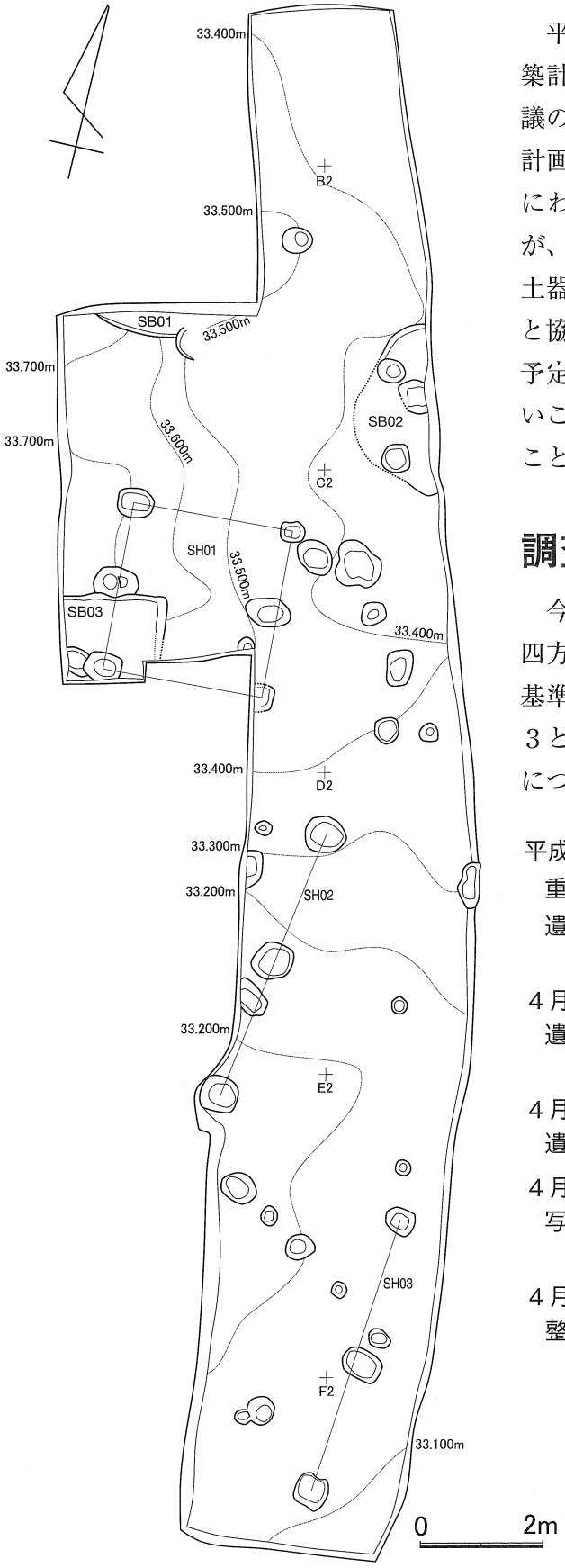
縄文時代後晩期になると様相は一転し、少量の土器が発見されるに留まっていることから、この地での集落は減少していたものと考えられる。

弥生時代に入ると、中期に比定さる竪穴住居跡、方形周溝墓が女高Ⅰ遺跡で発見されているほか、今坂遺跡では土器棺墓が発見されている。

弥生時代後期から古墳時代前期は和田岡原上の遺跡数が爆発的に増加する時期である。発見される遺構のほとんどは、竪穴住居跡や掘立柱建物跡で、当該時期に大規模な集落が営まれていたことが認められる。また、本書で報告する林遺跡においても、弥生時代後期の竪穴住居跡が発見されている。

古墳時代中期になると和田岡原上の様相は一変し、全長66mの前方後円墳である各和金塚古墳をはじめとした和田岡古墳群の他、段丘の縁辺部に小規模古墳が造営される。一方で、集落の発見例は少なく、古墳を造営した集団の動向は明らかになっていない。今後の調査成果が期待されるところである。

古代以降の様相については不明なところが多いが、林遺跡において13世紀を中心とした屋敷跡と墓域が発見されている。



第1図　遺構全体図

調査に至る経緯

平成30年12月、当地において建売住宅2棟の建築計画があることがわかり、事業者及び地権者と協議の上、平成31年1月8日に確認調査を実施した。計画地内にトレンチを設定し掘削したところ、全域にわたり現代の宅地造成に伴い攪乱を受けていたが、時期不明の小穴及び、弥生時代から古墳時代の土器片が出土した。これを受け、事業者及び地権者と協議した結果、計画地のうちカーポートの造成が予定される東側部分において、遺跡の破壊が免れないことから、記録保存の為の本発掘調査を実施することとなった。

調査の方法と経過

今回の調査区は167㎡とし、地形に合わせて5m四方のグリッドを設定、遺物の取り上げ及び実測の基準とした。グリッドは東西の列を西から1、2、3とし南北の列を北からA、Bとした。調査の経過については下記のとおりである。

平成31年4月8日

重機掘削　表土を重機（バックホウ）により除去。

遺構検出　人力により鋤簾等を用いて遺構検出面まで掘削し、遺構を検出。

4月9日～

遺構掘削　人力により移植ゴテ等を用い、遺構を掘削。

4月11日

遺構実測　平面図を1／20で作成。

4月12日

写真撮影　現地記録写真は、デジタル1眼レフカメラ（センサーサイズAPS-C）1台使用。

4月15日～令和2年2月21日

整理作業　土器は水洗い後バインダー液により強化。その後出土位置を注記し、実測等を実施。図面等は報告書用に編集し、原稿をまとめ印刷に付した。

遺構

SB01（第２図）

Ｂ１区に位置する。残存状況は悪く、東側は現代の攪乱により破壊されている。また、北側の大半は調査区外であったため平面形は不明である。覆土には土器の微細片が混入していたが、時期が特定できる遺物の出土は確認されなかった。

SB02（第２図）

Ｂ２区からＣ２区に位置する。残存状況は悪く、西側から南側において明確な堀り方は検出されなかった。覆土には炉の残骸と考えられる焼土ブロックに混じり、現代のゴミも検出されていることから、西側から南側の大部分を攪乱されていると考えられる。

SB03（第３図）

Ｃ１区に位置する。残存状況は悪く、西側と南側の大半は調査区外であるものの、平面形は方形であることが予想される。出土遺物は１で、折り返し口縁をもつ壺の破片である。

SH01（第３図）

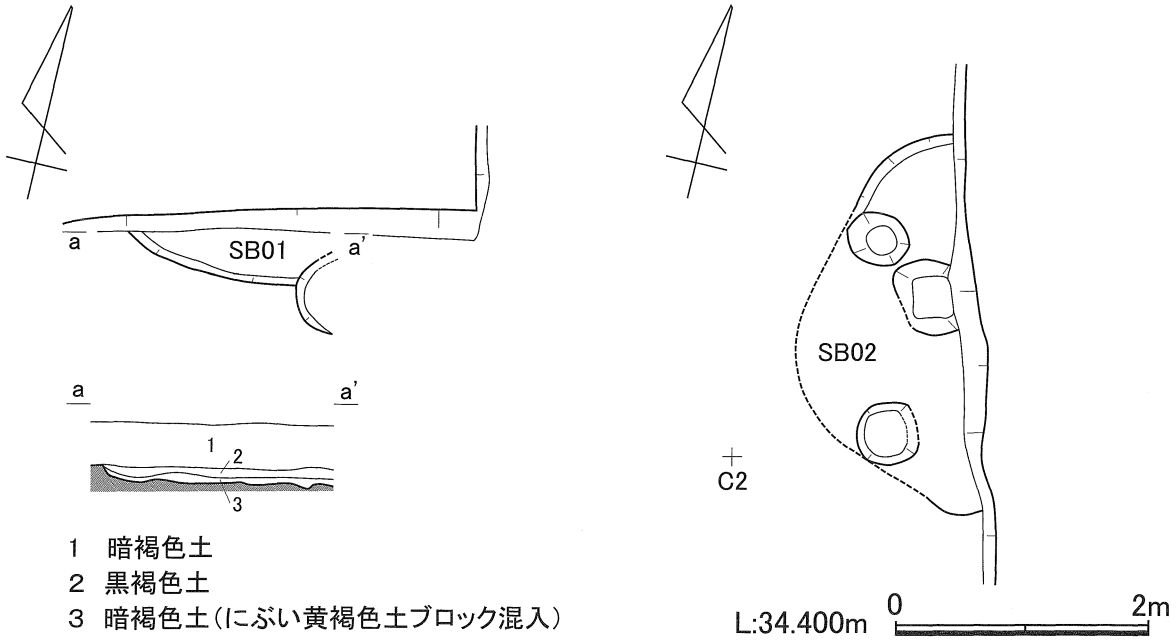
Ｃ１区に位置する。規模は約 2.60 m × 2.80 mである。SB03 と切り合い、土層の堆積状況から SB03 が先行する。また、覆土は黒褐色砂質土で３～５cm 大の礫を含み、SH02、03 とは明らに相違が認められた。

SH02（第３図）

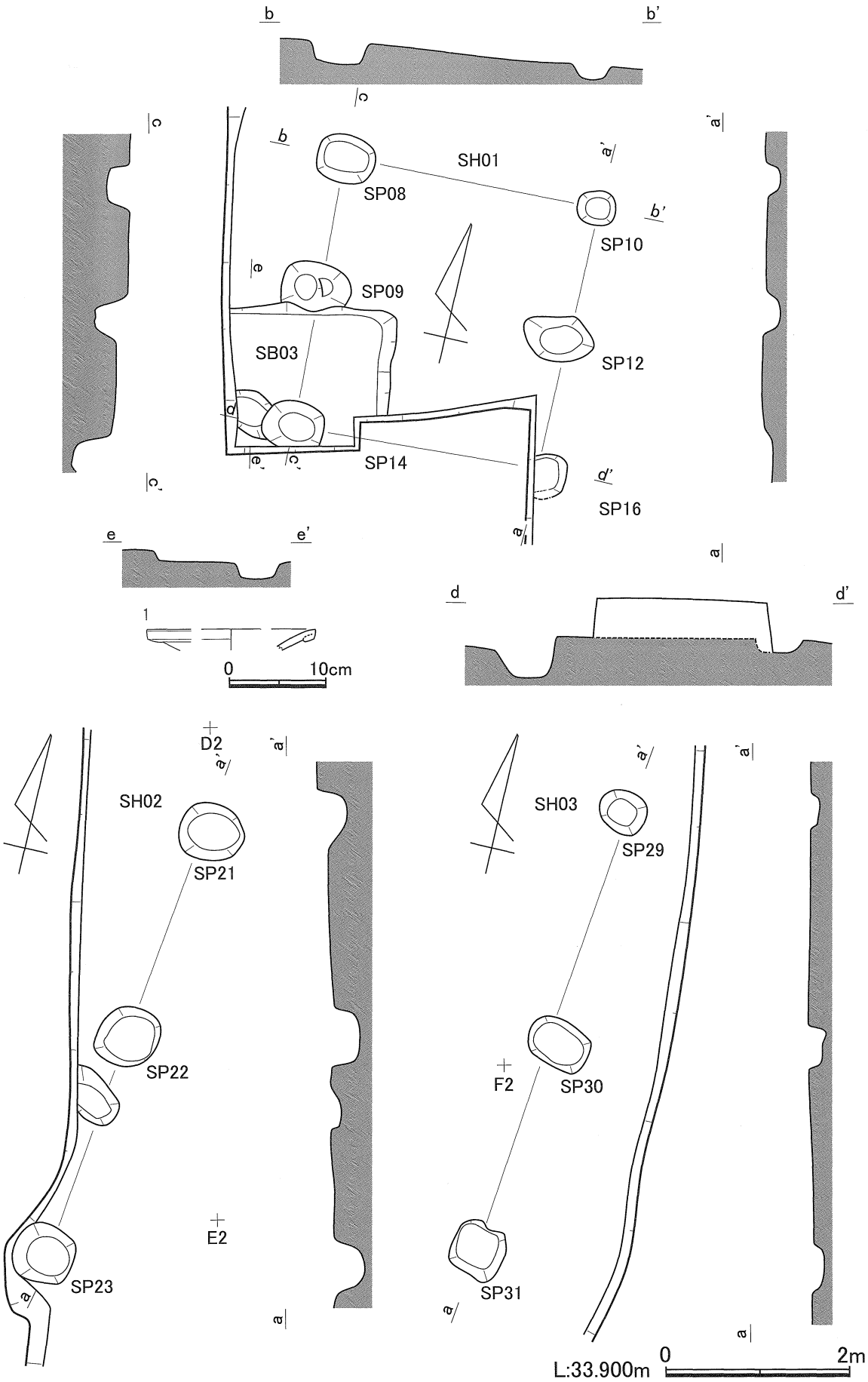
Ｄ１区からＥ１区に位置する。南北方向の規模は約 4.7 mで、対になる柱穴列は西側調査区外に位置すると考えられる。

SH03（第３図）

Ｅ２区、Ｆ１区、Ｆ２区に位置する。南北方向の規模は約 4.7 mで、対になる柱穴列は東側調査区外に位置すると考えられる。

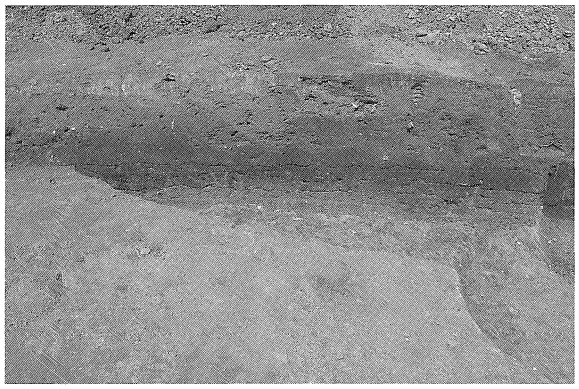


第２図　SB01・SB02実測図



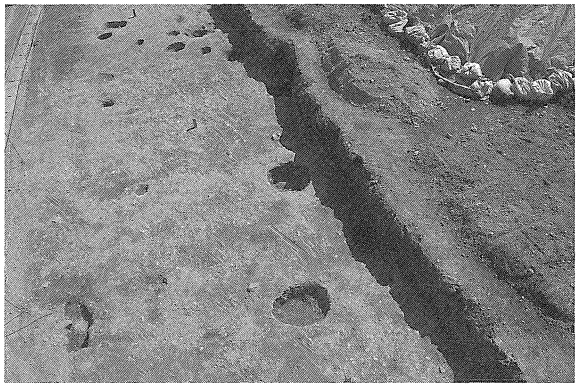
第3図　SB03・SH01・SH02・SH03実測図

調査区全景（南から）



SB01完掘状況（南から）

SB03、SH01完掘状況（北から）



SH02完掘状況（北から）

SH03完掘状況（北から）

報告書抄録

ふりがな	はやしいせきだいななじはっくつちょうさほうこくしょ
書名	林遺跡第７次発掘調査報告書
編著者名	長井郁織　戸塚和美
編集機関	掛川市教育委員会
所在地	〒436-8650　静岡県掛川市長谷 1-1-1　TEL0537-21-1158
発行機関	掛川市教育委員会
発行年月日	2020年（令和２年）２月28日

所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
林遺跡	静岡県掛川市吉岡	34 度 79 分 28 秒	137 度 95 分 31 秒	2019年（平成31年） 4月8日 ～ 2019年（平成31年） 4月12日	167 ㎡	建売住宅建設

種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
集落	弥生時代 不明	竪穴住居跡 掘立柱建物跡	土器 なし	

林遺跡第７次発掘調査報告書

2020年（令和２年）２月28日

編集・発行　掛川市教育委員会　静岡県掛川市長谷一丁目１番地の１

印刷・製本　株式会社 幸栄グラフィック